

6 計画全体に共通する取組

後期基本計画の推進にあたっては、健幸増進都市、令和元年東日本台風災害からの復興、SDGs及びSociety5.0が計画全体に共通する取組としてベースとなり、その上に全55施策を立て、更に分野横断的に取り組む必要があるテーマを総合戦略とし、取り組んでいきます。

(1) 「健幸増進都市」の推進

健幸増進都市とは、心と体の健康づくりを進め、経済的にも安定した暮らしの中で、文化芸術やスポーツなどの余暇を楽しむとともに、市民がお互いを認め合い支え合いながら、地域社会で自分らしくいきいきと暮らすことができ、心身ともに健康で幸せが感じられるまちです。

健幸増進都市への取組を通じて、まちの将来像である「幸せ実感都市『ながの』～“オールながの”で未来を創造しよう～」の実現を目指します。

(2) 長野市災害復興計画※に基づく令和元年東日本台風災害からの復興

① 安全・安心の再生

被災者が、安心して自立した暮らしを送ることができるよう、生活再建に向けた総合的な支援に取り組めます。さらに、被災者の悩みや課題解決のため一人ひとりに寄り添った、きめ細かな対応ができる相談体制を整備します。

また今後、様々な自然災害の発生が懸念される中、再度の被災を防止するためには、市民が安全で安心して暮らせる災害に強いまちづくりを進めることが喫緊の課題です。このため、国や県などの関係機関と十分に連携して治水・治山対策を進めるとともに、被災した公共施設やインフラの早期復旧と機能強化を推進します。併せて、地域や個人の防災力の向上を図ることで、今後の防災・減災に向け、ハードとソフトの両面から取組を強化します。

② 生業^{なりわい}の再生

今回の災害により、農林業や商工業などの多くの地域産業は、施設・設備などに大きな被害を受けるとともに、風評などによる間接的な被害も相まって、事業活動への支障や観光客の減少など、地域経済が甚大な影響を受けました。

このため、農林業事業者や商工業事業者に対して事業活動の再生に向け継続的な支援を行います。

③ 賑わい^{にぎ}の再生

今後、人口減少や少子高齢化などにより社会情勢が変化する中、長野市への移住・定住を促進するとともに、本市を応援したり訪れたりする関係人口*の増加に取り組むことも重要です。

災害からの復興は、長野市の魅力をさらに発展させていくとともに、地域資源や復興に向けて取り組む姿を全国にアピールできる機会であると考えています。

また、地域の魅力を観光に活かしていく工夫や、風評被害を払しょくする観光復興に向け

※ 長野市災害復興計画……令和元年東日本台風災害の被災地の復興を目指し、令和2年度から概ね5年後の姿を見据え、令和2年4月に長野市が策定した計画。
※ 関係人口……移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様にかかわる人々のこと。

た観光プロモーション*の展開などによって、災害からの復興に向けた機運を高め、観光客の増加を目指します。

(3) SDGsの推進

SDGs (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略) とは平成27 (2015) 年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、平成28 (2016) 年から令和12 (2030) 年までの国際目標です。

持続可能な世界を実現するための17のゴールと、それを実現するための169のターゲットで構成されており、地球上の「誰一人取り残さない」と誓い、包括的な社会の実現を目指して、経済・社会・環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むこととしています。

本市は、SDGsの趣旨を理解し、今の市民も、未来の市民も住みよい持続可能なまちづくりに取り組むため、SDGsを推進していきます。

そのため、本市の最上位計画である総合計画にSDGsの視点を取り入れることで、各個別計画や各事業にもSDGsの要素を反映していきます。

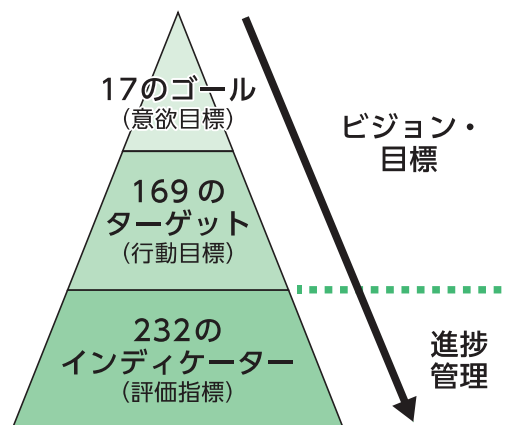
また、各施策に該当するゴールを明示するとともに、資料に後期基本計画の施策とSDGsの関連表を掲載しました。

なお、本市は、令和3年5月に「SDGs未来都市」に選定されました。今後は、長野市SDGs未来都市計画に基づき、未来をになう若者が積極的に発言できる場を設け、環境共生都市「ながの」の実現に向けて取組を進めていきます。

【SDGs 17のゴール】



【SDGsの構成】



* 観光プロモーション……観光地への旅行者の集客及び観光地自体の認知拡大等を目的とし、メディアへの露出や、広告・広報 (PR) の出稿、イベントの企画等を行うこと。

(4) Society5.0の実現

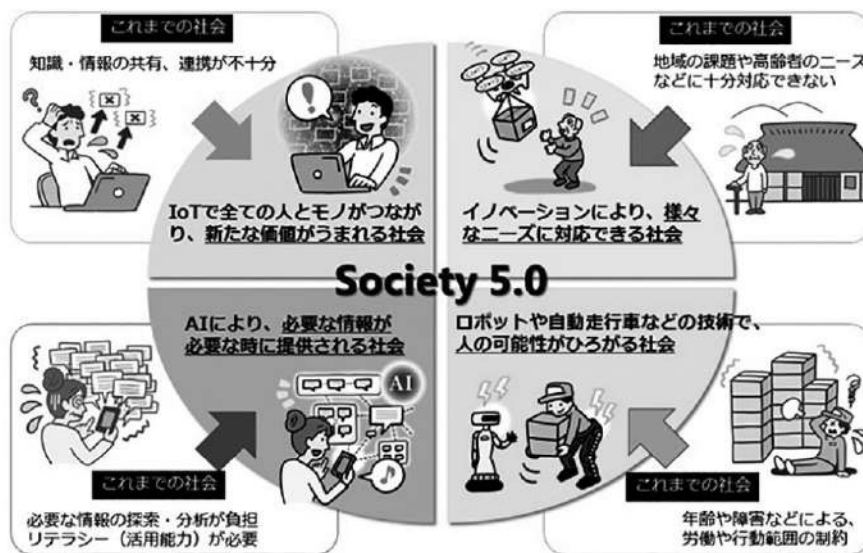
Society5.0とは、情報社会（Society4.0）に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会課題の解決を両立する人間中心の社会を目指すものです。日本が目指すべき未来社会の姿として「第5期科学技術基本計画[※]」に提唱され、IoT（モノのインターネット）[※]、ロボット、AI（人工知能）[※]等の先端技術をあらゆる産業や社会に取り入れ、地域課題の解決への取組が求められています。

本市においても、人口減少・少子高齢化の流れの中、平成17（2005）年・平成22（2010）年の2度の合併による市域の拡大、令和元年東日本台風災害、さらには新たな感染症の脅威を契機として、深刻化する社会課題など、めまぐるしい変化に正面から向き合い、未来に向けた新たな一歩を踏み出す転換期にきています。

そのため、本市が抱える様々な課題を効率的に解決し、生活の質も大きく向上させることができるICT（情報通信技術）[※]やAI（人工知能）などのデジタル技術等を最大限活用して、「長野らしさ」にさらなる磨きをかけながら、迅速かつ柔軟に対応した持続可能なまちづくりが必要です。

本市は、令和3（2021）年2月の「スマートシティNAGANO宣言[※]」に基づき、デジタル技術等をはじめとする先端技術の活用によるスマートシティを推進し、Society5.0の実現を目指していきます。

また、デジタル技術等の活用だけでなく、人と人とのつながりや、伝統文化との触れ合いなど、各分野が持つアナログの良さを活かしていくことで、人の感覚を大切にす長野市ならではのデジタルとアナログの融合による新しい社会の構築を目指します。



資料：内閣府HP

- ※ 第5期科学技術基本計画……………科学技術基本計画とは、科学技術基本法に基づき政府が策定する10年先を見通した5年間の科学技術の進行に関する総合的な計画。第5期基本計画（H28～R2）では「科学技術イノベーション政策」を強力に推進し、「世界で最もイノベーションに適した国」へ導くことを取組内容としている。
- ※ IoT（モノのインターネット）……………Internet of Thingsの略。あらゆるモノがインターネットを通じてつながることにより実現する新たなサービス、ビジネスモデル、またはそれらを可能とする技術の総称。
- ※ AI（人工知能）……………Artificial Intelligenceの略。コンピューターで、記憶・推論・判断・学習など、人間の知的機能を代行できるようにモデル化されたソフトウェアシステム。
- ※ ICT（情報通信技術）……………Information and Communication Technologyの略。情報や通信に関する技術のこと。
- ※ スマートシティNAGANO宣言……………人口減少・少子高齢化社会の到来による労働者不足やインフラの老朽化、激甚化する災害対応などの地域課題を解決し、市民生活の向上を同時に実現するために、デジタル技術等の先端技術を最大限活用していくスマートシティへの取組について、令和3年2月に表明したものである。

7 分野横断テーマ（総合戦略）

後期基本計画策定の背景で示した本市が取り組むべき課題やチャレンジを踏まえ、分野別施策だけでは解決や実現が困難であり、分野横断的に取り組むことが必要な項目として3つのテーマを定め、「ひと」と「しごと」の好循環により地域社会に活力を生み、持続可能な「まち」を目指します。

この分野横断テーマを人口減少・少子高齢化対策と地域活性化に向けた総合戦略とし、その実現に向け、特に必要となる視点を「テーマ実現のための視点」として整理しています。


また、総合戦略の進捗を図るため、テーマごとに指標値を定めるとともに、数値目標を設定しています（*95頁から96頁を参照）。

分野横断テーマ ①

誰もが生き生きと安心して暮らし続けられる「まち」の実現 ＜住みやすい地域づくり＞

テーマ実現のための視点

- **「防災・減災対策の推進」**
建物の耐震化や浸水対策等の防災・減災対策を推進し、災害による被害を最小限に抑えます。
- **「暮らしを支える機能の確保」**
人口が減少していく中においても、それぞれの地域に住み続けるために福祉サービスや公共交通などの暮らしを支える機能を確保します。
- **「健康と心の豊かさの増進」**
心身ともに健康で充実した生活を送り続けることができるまちを目指します。
- **「地域の課題解決や活性化の推進」**
地域の課題解決や活性化に繋がる、地域住民や各種団体、企業など、さまざまな主体による取組を支援します。
- **「地域資源の活用・発信」**
地域の資源を見だし活用・発信することで、資源・経済の地域内循環を促進し、地域の活力を高めます。
- **「先端技術の活用」**
デジタル技術などの先端技術を活用することで、誰もが住みやすいと実感できるまちの実現を目指します。


* 25頁から94頁に掲載されている各施策において、分野横断テーマ①に関連する施策には、のアイコンを表示してあります。

分野横断テーマ ②

「ひと」が集い、つながり、育つ、ふるさと“ながの”の実現 ＜移住・定住・交流の促進＞＜少子化対策・子育て支援＞

テーマ実現のための視点

- **「地元定着の促進」**
若い世代のふるさと志向や長野市への愛着を高め、本市への定着を促進します。
- **「移住・定住の推進」**
地方回帰の高まりを捉え、移住に関する情報を積極的に発信し、移住希望者の受入れを推進し定住に繋がります。
- **「関係人口の創出」**
長野市への関心・興味を高め、継続的に関わる人口の創出・拡大を推進し、新しい人の流れをつくり出します。
- **「地域資源を活かした観光の推進」**
長野市の様々な地域資源を観光に結びつけ、新たな価値を創造することで、訪れたいくなるまちづくりを推進します。
- **「広域観光・インバウンド^{*}の推進」**
北陸新幹線大阪延伸も見据え、首都圏へのアクセスの良さと、北信の玄関口としてのハブ機能^{*}を活かした広域観光・インバウンドを推進します。
- **「文化芸術・スポーツの推進」**
文化芸術・スポーツがもつ感動や喜びで、にぎわいや活力を創出します。
- **「少子化対策・子育て支援の推進」**
結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援と働きながら子育てしやすい環境づくりを進めるとともに、子どもを持ちたいという若い世代が安心して子どもを産み育てることができるよう、個々人の希望をかなえる社会の実現を目指します。
- **「学びの機会の充実」**
豊かな教育環境づくりを進め、子どもの「生きる力」を育むとともに、全世代の学びの機会を充実させ、地域力の向上を目指します。

* 25頁から94頁に掲載されている各施策において、分野横断テーマ②に関連する施策には、のアイコンを表示してあります。


※ インバウンド……………訪日外国人旅行のこと。

※ ハブ機能……………周辺の観光地等をつなぐ軸となる結節機能のこと。

魅力ある「しごと」による担い手の確保と潤う地域の実現
 <しごとの創出と確保>

テーマ実現のための視点

- **「産学官金[※]の連携による成長支援」**
 創業や新製品・新技術の開発、地域特性を活かした新たな特産品づくりや販路開拓など産業の成長支援に産学官金の連携により取り組みます。
- **「産業集積の推進」**
 地域への経済波及効果の高い産業や将来の発展が見込まれるICT関連産業などの都市型産業の誘致をはじめとする企業の立地促進に取り組み、地域経済を支える産業の集積を進めます。
- **「産業の担い手の育成」**
 地域の産業を支える担い手の育成を進め、就労支援など「ひと」と「しごと」を結びつける事業に取り組みます。
- **「生産性と付加価値の向上」**
 先端技術を活用することで産業の生産性や製品の付加価値の向上を図るほか、スマートシティを推進し、新しいサービスを生み出すことで地域課題の解決と新たな雇用を創出します。
- **「多様な働き方の推進」**
 テレワーク[※]やワーケーション[※]などの多様な働き方により、地域の職の魅力の向上や働きやすさが増すことで、地域への新しい人の流れを創出します。

* 25頁から94頁に掲載されている各施策において、分野横断テーマ③に関連する施策には、のアイコンを表示してあります。

※ 産学官金……………産は企業（産業界）、学は大学等の学術研究機関、官は行政機関等、金は金融機関のこと。
 ※ テレワーク……………情報通信機器等を活用した場所や時間にとらわれない柔軟な働き方のこと。
 ※ ワケーション……………「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇をとる過ごし方のこと。